

ネット活用で多様な働き方

商議所推奨の「テレワーク」



受注の仕方やライティングを学ぶ講座を実施

女性の隙間時間に着目

子育て世代の女性などが、時間や場所にとらわれずに働くことのできる「テレワーク」(クラウド・ソーシング)の普及支援に横須賀商工会議所が乗り出した。インターネットを介して業務を受発注する仕組みで、民間IT会社などが専用のWEBサイトを開設している。これを活用することで女性の社会参加を促し、経済的な余裕を手にするを狙う。

テレワークとは、「te e=離れた所」と「work=働く」を組み合わせた造語。新しい働き方の形として注目を集めているほか、雇用の二形態として戦略的

に取り組み自治体なども出てきている。開設されている民間会社のサイトでは、コラム執筆や体験記などのライティングからロゴマークデザイン、翻訳業務といった仕事の依頼が複数掲載されている。得られる報酬額も表示されており、自分の得意分野や自負している能力と照らしてエントリーできる。

同商議所では、総務省の支援を受けて今回の事業を推進。民間会社の「クラウドワークス」と連携して主に子育て中の女性などお母さんテレワーカーの

増強に挑む。現在は市民グループ「お母さん大学横須賀支部」のメンバー数名が参加しており、仕事を受注する上で必要となるライティングなどの基礎知識を学んでいる。テレワーカーの積極的な交流や共働といったコミュニケーション形成を促すためのワーカーズサロン

も商議所内に開設するなど支援環境も整える。同商議所の担当者は「将来的には、介護中の人が隙間の時間を使って仕事をすることや、引きこもり状態にある人が自宅で働くことなども想定している」と話し、利用者の拡大をめざしていく。